

## 株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先)	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

## (ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
4. 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に伴い、平成29年8月14日付にて上記のとおり変更しております。

住まいの節り職人

ATOM  
LIVINTECH

アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)  
ホームページ <http://www.atomlt.com/>見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

# ATOM LIVINTECH

## IR NEWS 第63期報告書

平成28年7月1日～平成29年6月30日



経営理念 「住まいの飾り職人」が  
つくり出す独創的な商品で、  
社会の発展に貢献します

社訓 「独り歩きのできる商品づくり」

社是 「創意・誠実・進取」

## 社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要もない「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が窺われており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。



株主の皆様へ



## 第63期の業績についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第63期の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

第63期におきまして、当社の関連する住宅市場は、贈与税非課税枠を利用した貸家着工が増加するとともに、低水準にある住宅ローン金利や被災地着工の進展に加え、省エネ住宅補助金制度など、政府による各種住宅取得支援政策を背景に、新設住宅着工戸数は緩やかな持ち直しの動きを示してまいりました。その一方で、人工不足や建築資材の値上がりによる住宅価格の高止まりに加え、工事の遅延、マンション着工の調整なども重石となって、本格的な市場の回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

こうした状況のもと、当社は当期を中間年度とする「第9次中期経営計画（第62期～第64期）」において掲げた「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」をスローガンに、内装金物全般に目を向けた「裾野の広い商品開発と新たな営業戦略の推進」を基本方針に掲げ、住宅関連産業における企画開発型企業として、より現場主義に徹した商品開発を目指し、機能性と利便性を向上させつつ、市場ニーズに応える「ものづくり」を推進してまいりました。また、活動を本格化した「セールスプロモーションチーム」を軸に、変革期を迎えつつある金物業界に一石を投じ、従来の販売チャンネルとの間に構築してきた信頼関係を守りつつ、中小需要家への対応強化を図り、全方位のお客様に対する積極的な営業活動に最大限の努力を傾注するとともに、販売費や一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じてまいりました。

このような取り組みの結果、第63期の業績は、売上高105億32百万円（前期比6.2%増）、営業利益5億71百万円（前期比78.2%増）、経常利益5億92百万円（前期比60.4%増）、当期純利益3億82百万円（前期比56.5%増）となりました。

当社におきましては、今後とも、企画開発型企業として新技術の開発、新商品の開発に取り組みるとともに、ソフトクローズ関連商品はもちろんのこと、周辺の事業領域を拡大しつつ、折戸・引戸金物以外の分野でも商品の裾野を拡大すべく注力してまいります。また、変革期を迎えつつある金物業界において、部門の垣根を越えた営業展開を推進し、販路の開拓に努め、「新たなステージでの飛躍」に向けた取り組みを強化してまいります。

平成29年9月



代表取締役社長 高橋 良一



## 「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」を目指し、裾野の広い商品開発と高度な次元の営業展開に取り組んでまいりました。

### 第63期の業績について

お客様に寄り添った商品開発と積極的な営業展開の歯車がしっかりと噛み合い、20期ぶりに売上高100億円を達成することができました。

第63期におきまして、当社が関連する住宅市場は、贈与税非課税枠を利用した相続対策としての貸家着工の増加に加え、政府のさまざまな住宅取得支援政策の効果もあって、きわめて好調のうちに推移してまいりました。こうした経営環境の好転を確実に収益へ結びつけるべく、各事業部から選抜された人材による「セールスプロモーションチーム(SPチーム)」を中心に、同業者を対象とする卸売事業部、大手需要家を対象とする特販事業部、建材メーカーなどを対象とする拠点統括部の3営業部門が総力を挙げ、積極的な営業展開に取り組んでまいりました。また、商品開発におきましては、ソフトクローズ関連商品の裾野が広まったことを受け、商品特性を活かした商品展開を進め、市場のニーズに応える「ものづくり」を強化してまいりました。その結果、20期ぶりに売上高が100億円を突破するとともに、増収増益を達成することができ、2017年7月31日付で通期業績予想の上方修正を発表いたしました。

こうした業績を確保できた第一の要因は、SPチームをはじめとする営業部門がお客様に寄り添った積極的な営業展開を行い、市場の伸びを確実に収益へと結びつけることができた点にあります。第二の要因は、ソフトクローズの先発メーカーとして商品特性を活かした商品展開を行い、関連商品のバリエーションを増やして価格競争に陥ることなく、独自の領域を構築

できた点があげられます。第三の要因は、商品開発と営業展開の歯車がしっかりと噛み合い、市場の信頼を高めてきた点にあります。具体的には問題が発生した現場を積極的に訪問し、次の商品開発につながるヒントを得ることで、市場、とりわけ現場サイドのニーズに応える「ものづくり」を進めてまいりました。こうした現場対応力の強化が、当社商品の施工性を高め、商品自体に対する信頼を高めることができたと考えております。

戦略別に見ますと、商品戦略におきましては、ソフトクローズ関連商品を軸に、特異性や発展性を活かした商品力の強化を図ってまいりました。こうした中において、内装金物全般で商品の裾野を広げる取り組みについては、当初の目論見に届いていない面もあり、開発体制の見直しに着手いたしました。

市場戦略におきましては、これまでお話ししてまいりましたように、SPチームの活動に触発され、各事業部が、複雑化・高度化する機能商品への販売支援活動を積極的に展開し、市場での信頼を高め、新たな市場の確保に取り組んでまいりました。

情報システム戦略につきましては、基幹システムとなる統合型パッケージのブラッシュ・アップを継続的に行い、業務効率と使い勝手を高める取り組みを行ってまいりました。また対外的な活動としては、動画による機能商品のプロモーション活動をはじめ、ホームページの組み直しを進めてまいりました。

加えて、2017年「春の新作発表会」を機に、アトムCSタワー2階に、当社商品が実際に使用されている状況を確認いただきながら、商談ができるスペース「LIVIN' ZONE」を設定いたしました。お客様からは、その場で具体的な商談ができる大変ご好評をいただいております。

### 中長期的な視点からの取り組みについて

当社が培ってきた価値観や行動規範を継承し、継続的な発展を可能にする世代交代を進めてまいります。

「裾野の広い商品開発と新たな営業戦略の推進」を基本方針に掲げ、「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」を目指す第9次中期経営計画に取り組む中で、先ほどもお話ししましたが、商品開発については当初の目論見通りに進んでいない現実があります。確かに、ソフトクローズ関連商品の裾野が広がっている状況でもあり、そちらに注力せざるを得ないことも事実ですが、こうした局面を打開するため、第63期下期から新たな商品開発を進捗させるための基盤整備に着手しました。これまで当社の商品開発を担ってきた開発部と、営業本部が統括する営業設計グループのスタッフを1カ所に集め、双方の垣根を取り払って自由に交流できる環境をつくり、第64期冒頭から新たな開発体制の確立を目指してまいります。これにより、開発業務における世代交代を進め、当社の将来を担う商品開発を強力に進めていきたいと考えております。同様の流れは、開発部門にとどまらず、営業部門、購買部門、業務部門など、全社的につくり出すことで「新たなステージでの飛躍」を目指す原動力にしていく考えです。

その根底には、単なる世代交代ではなく、創業以来、培ってきた当社の価値観なり、行動規範なりをいかに受け継ぎ、発展・確立させて行くかという大変重要な課題があります。第64期は第9次中期経営計画の最終年度にあたることを踏まえ、新たな体制づくりの基盤整備に取り組んでまいります。

また、第63期において、新規市場の開拓と価格競争力を強化するという観点から、上海阿童木建材商貿有限公司に続き、かねてより駐在員事務所を開設しておりましたベトナム・ホーチミン市に、現地法人の子会社「ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED」を2017年5月18日付で設立いたしま

した。2017年7月14日には輸出入許可も取得し、本格的に活動を開始しております。当面は、現地生産品の調達を強化するとともに、東南アジア市場での販路拡大に取り組んでまいります。一方、本社におきましては、ベトナム現地での販売支援、更に現地生産品の日本国内での販売支援を行う海外事業推進グループを2017年1月に立ち上げ、取手や引手などベーシックな商品の価格競争力を高めていきたいと考えております。また同グループは、将来的に新規市場の開拓をはじめとする海外での事業活動全般を担う部門とすべく注力してまいります。

### 株主の皆様へのメッセージ

株主の皆様とのコミュニケーションを深め、今後とも、株主利益の向上に努めてまいります。

当社では第9次中期経営計画で、安定的な経営基盤の確保と株主利益の向上に努めることを前提に、利益水準のいかに関わらず、最低でも1株当たり年間25円の配当を維持することを目標に、株主利益の向上を図る旨のお約束をしておりました。こうした基本方針に基づき、第63期においては、期末配当金につきましては当初の配当予想12円50銭に2円50銭を増配した15円とし、中間配当金の15円と合わせ、1株当たりの年間配当金を30円とさせていただきます。来期以降は創業115周年に始まり、アトムブランド誕生65周年、法人改組65周年と、連続して周年記念を迎える運びでもあり、これらに備えるべく、全社一丸となって業績と株主利益の向上に努めてまいります。

当社では、ホームページを通じたタイムリーな情報開示に加え、毎年開催される「日経IR・投資フェア」への出展、アトムCSタワーにおけるIRコーナーの開設など、積極的なIR活動を通じて株主の皆様との密接なコミュニケーションに取り組んでおります。株主の皆様におかれましては、引き続き、当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「2017 春の新作発表会」を開催いたしました。



当社では、お客様に当社商品をよりよくご理解いただくとともに、市場ニーズに応える「ものづくり」を進めるため、「秋の内覧会」「春の新作発表会」という年2回のプロモーション活動を開催いたしております。2017年4月には、例年通り大阪の「アトム住まいの金物ギャラリー大阪（4月13～15日）」および東京の「アトムCSタワー（4月20～22日）」で開催いたしました。今回は、上吊式から下荷重式まで、さまざまなニーズに対応したソフトクローズ引戸、シンクロ連動引戸や新型折戸金具などを、施工例とともにご紹介いたしました。また、「春の新作発表会」に併せ、住宅の間取りをイメージした「LIVIN' ZONE」をアトムCSタワーに開設、実際の住空間に近い状態でご覧いただきました。

### 移動間仕切りSW-900



家族構成や生活様式の変化に応じ、フロアの間仕切りをフレキシブルに変えることができる、移動間仕切りシステムです。吊り車には走行がスムーズなベアリング車輪を採用。レールの継ぎ手に左右方向の制限がない構造のため、戸の動きが左右自在で、しかも滑らかになりました。

### 引戸用戸当りクッション2



クッション性を重視すると密着度が弱いというこれまでの悩みを解消するため、ベースとクッションの2パーツ式を採用しました。ベースはABS製でねじ止めが可能。クッションはエラストマー製（軟質・硬質の二層構造）で、アタッチメント式となっています。接着剤との併用を推奨します。

### アウトセット引戸錠OS-B1【空錠】



幼稚園などで小さなお子様の手の届かない場所に設置ができ、引き違い戸の両面使用にも最適な引戸錠です。従来の商品よりも加工がしやすいうえ、手掛かりや表示部が大きく、かつ見やすくなりました。ロックや開錠もワンプッシュだけの簡単操作で、利便性がよりアップしています。

## 「パレット」をテーマに、「ATOM×TOKAI 産学連携作品展」を開催いたしました。

今年で10回目を迎えた、東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程の学生による作品展。今回は、日常生活を絵のキャンバスと捉え、そこに色彩を与える意味を含め、テーマに「パレット」を設定。彩りあふれた生活を演出する作品が提案されました。

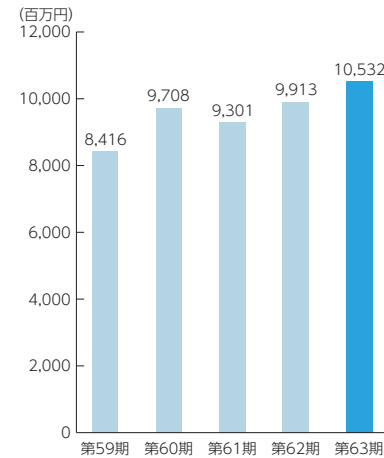


## アトムCSタワーに住空間を再現した「LIVIN' ZONE」がお目見え

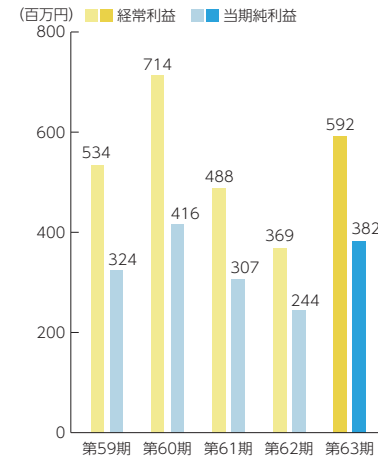


「春の新作発表会」を機に、アトムCSタワーに住宅の間取りをイメージした「LIVIN' ZONE」がお目見えしました。「LIVIN' ZONE」は、当社SPチームの強い要望により実現したもので、当社商品を住空間に近い形でご覧いただけるほか、当社商品を手に取りながら商談できるスペースとしても活用されています。「LIVIN' ZONE」を訪問されたお客様から承ったご要望を実際に反映した商品が開発されるなど、無限の可能性を秘めた「LIVIN' ZONE」の今後にご期待ください。また、2017年秋には、福祉施設や保育園、幼稚園などの公共スペースを対象とした「LIVIN' ZONE」第二弾の開設も予定しております。

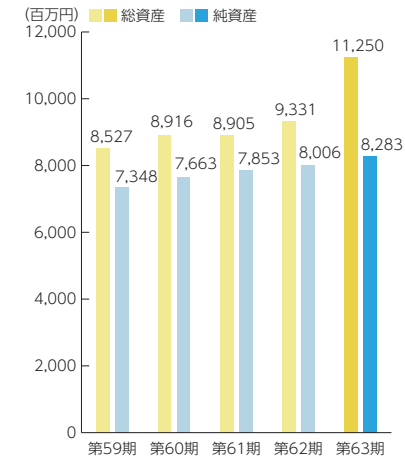
## ● 売上高



## ● 経常利益／当期純利益



## ● 総資産／純資産



## ● 主要経営指標

	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
売上高営業利益率 (%)	5.9	7.0	4.8	3.2	5.4
総資本営業利益率 [ROA] (%)	6.0	7.8	5.0	3.5	5.6
自己資本利益率 [ROE] (%)	4.5	5.6	4.0	3.1	4.7
流動比率 (%)	623.5	596.0	743.0	576.0	289.4
固定比率 (%)	46.1	47.4	44.2	44.2	43.9
自己資本比率 (%)	86.2	85.9	88.2	85.8	73.6
1株当たり純資産額 (円)	1,841.7	1,920.8	1,968.4	2,006.7	2,076.1
1株当たり当期純利益 (円)	81.5	104.3	77.1	61.2	95.8
1株当たり配当額 (円)	25.00	30.00	25.00	25.00	30.00
配当性向 (%)	30.7	28.8	32.4	40.8	31.3

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目	前 期 (自 平成27年7月1日 至 平成28年6月30日)	当 期 (自 平成28年7月1日 至 平成29年6月30日)
売上高	9,913,841	10,532,090
売上原価	7,318,366	7,744,260
売上総利益	2,595,475	2,787,829
販売費及び一般管理費	2,274,653	2,215,984
<b>営業利益</b>	<b>320,822</b>	<b>571,845</b>
営業外収益	48,564	23,100
営業外費用	3	2,522
経常利益	369,382	592,424
特別利益	—	—
特別損失	2,237	32,043
税引前当期純利益	367,145	560,380
法人税、住民税及び事業税	149,678	173,140
法人税等調整額	△26,839	4,881
当期純利益	244,307	382,357

## 損益計算書

## Point

## 営業利益

売上高の増嵩に伴い売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の圧縮に努めた結果、前期比251百万円の増益となりました。

貸借対照表

Point

現金及び預金

増減の詳細につきましては、キャッシュ・フロー計算書のコメントをご参照ください。

Point

電子記録債務

当期から電子記録債務を導入したことにより、前期末に比べ1,577百万円の増加となりました。

科目	期別 前期 (平成28年 6月30日現在)	当期 (平成29年 6月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,634,751	4,335,045
受取手形及び売掛金	2,525,513	2,550,038
有価証券	-	201,520
商品	554,649	467,708
貯蔵品	17,388	-
その他	63,203	64,037
貸倒引当金	△252	△255
流動資産合計	5,795,254	7,618,094
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,008,774	960,666
工具、器具及び備品(純額)	109,268	130,015
土地	1,027,767	1,027,767
その他(純額)	9,321	20,339
有形固定資産合計	2,155,132	2,138,789
無形固定資産		
投資その他の資産	110,977	84,076
投資有価証券	1,176,873	1,287,617
その他	92,899	121,882
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	1,269,772	1,409,500
固定資産合計	3,535,882	3,632,366
資産合計	9,331,136	11,250,461

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目	期別 前期 (平成28年 6月30日現在)	当期 (平成29年 6月30日現在)
<b>(負債の部)</b>		
流動負債		
支払手形	-	113,164
電子記録債務	-	1,577,326
買掛金	599,263	575,672
未払法人税等	89,467	111,686
製品補償引当金	82,398	65,590
その他	234,954	189,327
流動負債合計	1,006,085	2,632,767
固定負債		
退職給付引当金	133,446	142,769
役員退職慰労引当金	183,679	188,845
その他	1,600	2,600
固定負債合計	318,725	334,215
負債合計	1,324,810	2,966,983
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	7,457,632	7,730,268
自己株式	△64,475	△64,475
株主資本合計	7,967,146	8,239,782
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	39,179	43,695
評価・換算差額等合計	39,179	43,695
純資産合計	8,006,325	8,283,478
負債純資産合計	9,331,136	11,250,461

株主資本等  
変動計算書

(自 平成28年7月1日  
至 平成29年6月30日)

単位：千円（千円未満切り捨て）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		土地圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			利益剰余金合計
当期首残高	300,745	273,245	273,245	43,189	81,916	6,000,000	1,332,527	7,457,632	△64,475	7,967,146
当期変動額										
剰余金の配当							△109,721	△109,721		△109,721
当期純利益							382,357	382,357		382,357
土地圧縮積立金の積立					13,951		△13,951	-		-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	13,951	-	258,683	272,635	-	272,635
当期末残高	300,745	273,245	273,245	43,189	95,868	6,000,000	1,591,210	7,730,268	△64,475	8,239,782

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	39,179	39,179	8,006,325
当期変動額			
剰余金の配当			△109,721
当期純利益			382,357
土地圧縮積立金の積立			-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	4,516	4,516	4,516
当期変動額合計	4,516	4,516	277,152
当期末残高	43,695	43,695	8,283,478

キャッシュ・フロー計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目	期別	前期 (自平成27年7月1日 至平成28年6月30日)	当期 (自平成28年7月1日 至平成29年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		571,733	2,261,534
投資活動によるキャッシュ・フロー		33,618	△451,604
財務活動によるキャッシュ・フロー		△90,029	△109,640
現金及び現金同等物に係る換算差額		△9	4
現金及び現金同等物の増加(△減少)額		515,312	1,700,293
現金及び現金同等物の期首残高		2,119,439	2,634,751
現金及び現金同等物の期末残高		2,634,751	4,335,045

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前当期純利益560百万円、資金流出ではない減価償却費203百万円、仕入債務の増加額1,580百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、法人税等の支払額160百万円等によるものです。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、投資有価証券の償還による収入100百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出119百万円、投資有価証券の取得による支出403百万円等によるものです。

Point

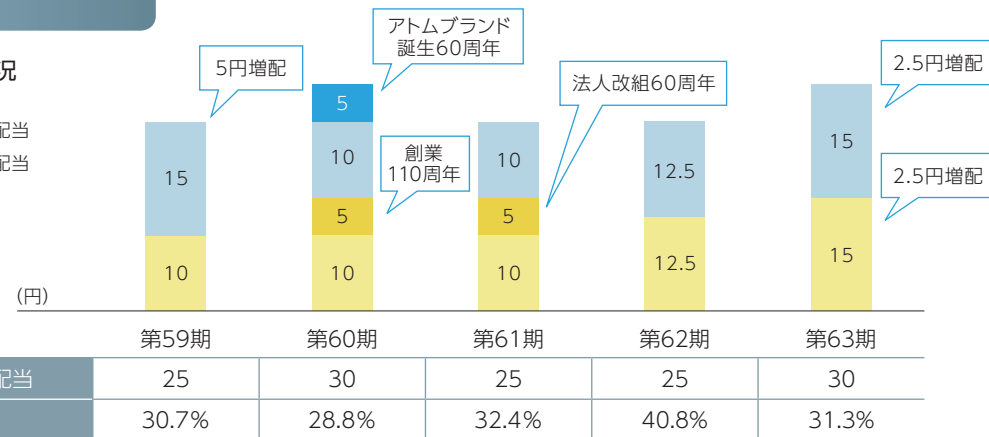
財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額109百万円によるものです。

配当状況

● 1株当たり配当状況

- 1株当たり期末記念配当
- 1株当たり中間記念配当
- 1株当たり期末配当
- 1株当たり中間配当



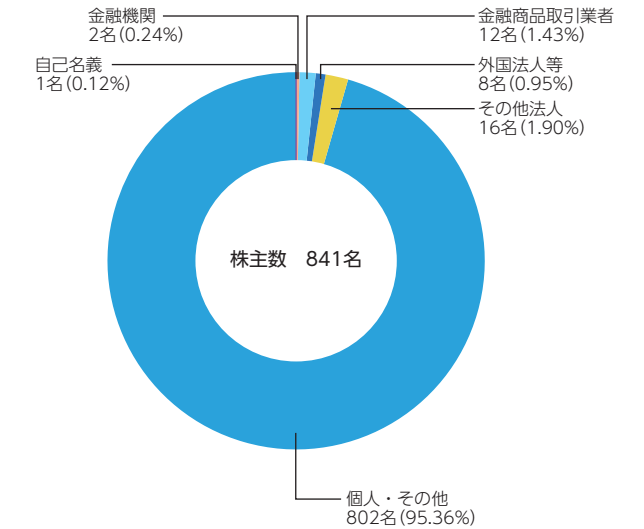
株式の概要

● 株式状況 (平成29年6月30日現在)

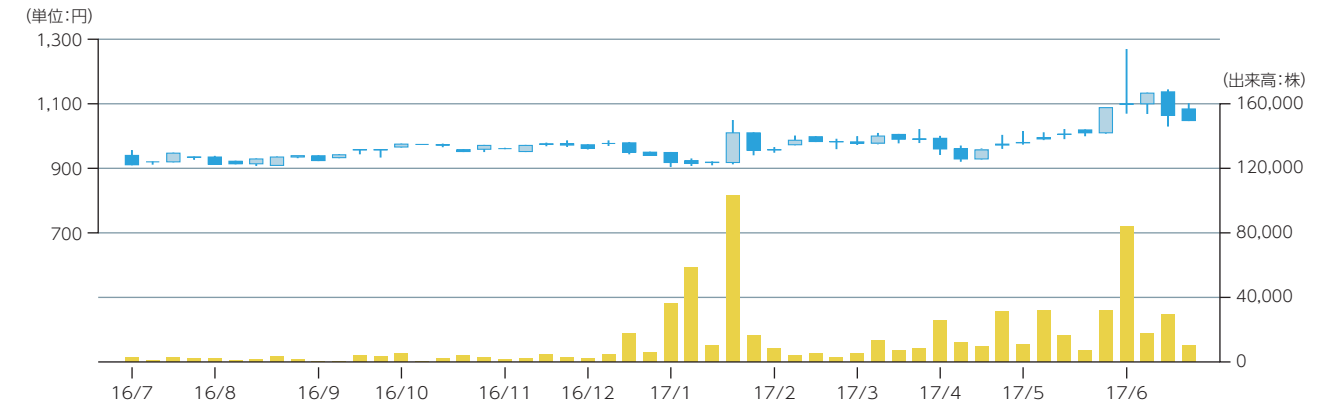
発行可能株式総数 15,420,000株  
 発行済株式の総数 4,105,000株  
 株主数 841名  
 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	885,440	21.56
高橋快一郎	500,000	12.18
アトムリビントック取引先持株会	383,600	9.34
高橋良一	290,000	7.06
アトムリビントック従業員持株会	285,060	6.94
高橋壽子	157,000	3.82
大塚李代	137,000	3.33
アトムリビントック株式会社	115,117	2.80
磯川産業株式会社	81,500	1.98
岡崎衛	73,500	1.79

● 株主の所有者別分布状況 (平成29年6月30日現在)



株価および出来高の推移



## 会社概要 (平成29年6月30日現在)

商号 アトムリビングテック株式会社  
 創業 明治36年  
 設立 昭和29年10月  
 事業内容 家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、  
 住まいの金物全般の企画・開発・販売  
 主要取引銀行 株式会社みずほ銀行  
 株式会社三菱東京UFJ銀行  
 株式会社三井住友銀行  
 従業員数 119名  
 (嘱託9名・パート16名含まず)

## 役員 (平成29年6月30日現在)

代表取締役社長	高橋良一
取締役副社長	高橋快一郎
取締役	森内弘
取締役	上田嗣夫
取締役	鈴木英光
取締役	伊藤友悌
常勤監査役	金子豊
監査役	輿水洋一
監査役	高島良樹

## 事業所一覧 (平成29年6月30日現在)

**本社**  
 〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600

**アトムC/Dセンター (商品本部)**  
 〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号 TEL 048-922-5551

**札幌営業所**  
 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号  
 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113

**前橋営業所**  
 〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651

**広島営業所**  
 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235

**アトムCSタワー**  
 〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号  
 アーバンスタイル事業部 TEL 03-3437-3673  
 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440

**アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所**  
 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281

## 海外拠点 (平成29年6月30日現在)

子会社: ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED  
 (ベトナム社会主義共和国) ※平成29年5月18日設立

子会社: 上海阿童木建材商貿有限公司(中華人民共和国)

シリーズ企画

アトムCSタワー

最前線 SPECIAL ISSUE



ギャラリーショップ KANAGUは、  
 生活文化にこだわりを持ち、  
 心豊かな暮らしを求める人々が、  
 職人の技によるインテリアグッズや  
 日用品を実際に手にとって  
 体感し、購入することができる  
 ギャラリーショップです。

ギャラリーショップ KANAGUのコンセプトは、  
 モノとモノ、モノとヒト、ヒトとヒトをつなぐ「暮らし  
 の飾り金具」。画一的な大量生産、大量販売、使い  
 捨て的な消費ではなく、職人の魂や技と生活者の  
 暮らしの美学が出会い、対話するスローショッピング  
 を目指しています。素材感、デザイン、仕上げの  
 隅々にまで職人のこだわりが、ぎゅっと詰まった  
 日用品やインテリアをセレクトしました。職人が  
 紡ぐ「モノ語り」に耳を傾けて、あなたのお気  
 に入りをゆっくり、じっくり見つけてください。

## 箸置き「三っ月」「四っ月」「五っ月」

「光」をテーマに形作られた、錆肌を活かした真鍮の箸置きです。小さな箸置きは収納時にバラバラになりやすいため、木箱に入れて、しつらえました。3個入り、4個入り、5個入りの3種。家紋のような美しさをお楽しみください。



- ◎メーカー: 株式会社 二上
- ◎素材: 真鍮
- ◎サイズ: (1個あたり) W35×D30×H10mm
- ◎箱サイズ: (三っ月&四っ月) W85×D85×H23mm  
 (五っ月) W100×D100×H25mm

詳細は、KANAGUショップのホームページ(<https://kanagu-store.com/>)でご確認ください。

ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、  
 さまざまなコンテンツをご用意しております。是非ご覧ください。



2017年1月、アトムCSタワーが  
 オープン10周年を迎えました。

アトムCSタワーが建つ芝・田村町、古くは芝家具の産地として知られ、その関係から、この場所には金物屋が多く集まり、通称「ホレンガ通り」は別名「金物屋通り」と呼ばれていました。この芝・田村町に、1980年、アトムリビングテックの前身となる高橋金物(株)が内装金物のショップ兼ショールームとして亜吐夢金物館を開業、以来、お客様の声をいち早く捉えた商品開発とお客様との交流に活用してまいりました。そして2007年、「住空間創造企業」を目指す当社のシンボルとして、亜吐夢金物館はアトムCSタワーへと生まれ変わりました。今年、晴れてオープン10周年を迎えたことを記念し、亜吐夢金物館にまつわる当時の写真の数々や現在の活動の様子をご紹介します写真とともに、10周年の記念展示をアトムCSタワー1階の「ギャラリーショップ KANAGU」で行いました。